

閉鎖式吸引システム ステリ・キャス (Steri-Cath)

最近では、MRSAを中心とした院内感染の予防対策の手引き書などに必ずといって良いほど、人工呼吸中の患者の気道内吸引における閉鎖式吸引回路の使用が勧告されている。閉鎖式の気道内吸引システムはいわゆる交叉感染の予防に寄与することは確実であるが、そのほかに人工呼吸器に接続したままで使用できること、清潔保守に伴う多くの看護・医療業務を不要にできることなど、従来の開放式の気道吸引法に比べ、優る点が非常に多い。しかし、システムの臨床的な使い勝手 (clinical competence) の面では未解決な部分や改善の余地が残されているように思われる。ここに取り上げた新システム・ステリ・キャスでは従来品に比べ、多くの改善点が見られ、臨床使用における満足度は高くなった。

まず、Tピース部分であるが、1ピース仕上げになっており、この部で外れる心配がなく、呼吸回路のYピースとのコネクタは15mm径で、接続時の違和感がない。死腔容積が約10mlと小さいのも良い。吸引カテーテルの部分は、先端が15°のベベル仕上げとなり、柔らかな材質処理がなされており、しかも、デブスゲージが付いた。イリゲーションラインは唯一システムと外界と連絡する部分であるが、内方向きの一方向弁が付いており、吸引ルーメンと独立したルーメンをなし、カテーテルの先端付近に開口する (すなわち、カテーテルはダブルルーメンとなっている)。これにより、気管内洗浄はもとより、気管内への薬剤投与や吸引カテーテル自身の洗浄がより容易に確実にできるようになった。カテーテル部分を包むスリーブの材質は従来品より肉厚で丈夫であり、破れる心配が少なくなったように感ずる。吸引時に圧するバルブ部分はロック式ではないが、周囲にガードが付いていて何らかの原因により押したままの状態となる事故を防ぐように工夫されている。このほか標準の付属品として気管内チューブや気管切開チューブとの接続部に用いるスイベルコネ

クタと各接続部分を外す時に用いるトラックウェッジなるものが付いている。後者は本システムのTピースと気管内チューブや呼吸回路との接続がきついときにこの部に嘯ませて容易に外すことのできる楔形をなした器具であるが、非常に便利である。これのみ単品で手に入れたいほどのアイデア商品といえる。

従来の開放式の吸引方法に比べ、閉鎖式吸引では理論的にも実際的にも院内における患者間の交叉感染防止の面での効果は確実に期待できる。治療に当たる医療従事者にとっても自身の安全はもとより、清潔保守に伴う多くの業務が省略でき、時間的余裕を生むことが可能となった。本システムは人工呼吸器に接続したままで使用できるとはいえ、CPAPやCPPV中の患者における吸引操作中の肺気量維持などが残された問題点としてあるが、今や重症呼吸管理に必須な手技になりつつあるように思われる。一方、全身麻酔中では、筋弛緩薬使用時はバックリングは起こらないので、とくにウェットケースなどでの応用に威力を発揮する。また、腹臥位の手術や脳外科手術においては、術中の開放式の気道内吸引は危険であり、困難な場合も多い。われわれはこのような場合にも本システムを利用して安全な気道内吸引を施行している。

日本医科大学麻酔科

井上 哲夫、竹田 晋浩

院内感染対策に

ステリ・キャス

〈閉鎖式サククションシステム〉



- 吸引時、気管内分泌物が大気中に飛散するのを防止します。
- 人工呼吸器を停止することなく、吸引作業が行えます。
- デュアルルーメン構造なので、カテーテル先端部から効果的に薬液投与や洗浄が行えます。
- 気管内チューブ用と気管切開チューブ用があります。

承認番号：4B輸第302号